

〈特別活動〉

仲間とともに進路を切り開く力を育てる学級活動

～進路学習を意識した学級通信を利用した話し合い活動を中心に～

宜野湾市立嘉数中学校教諭 堀田 朋代

目 次

I	テーマ設定の理由	21
II	研究目標	21
III	研究仮説	22
IV	研究の全体構想図	22
VI	研究内容	23
1	現在の進路指導について	23
2	進路を切り開く力の定義	23
3	進路指導計画の見直しについて	24
4	進路指導を意識した学級通信のあり方	27
5	構成的グループエンカウンター（SGE）の手法を用いた進路学習の工夫	30
VI	授業実践	31
1	〔検証授業1〕について	31
2	〔検証授業1〕の授業研究会	36
3	〔検証授業2〕について	36
4	分析及び考察	38
VII	研究の成果と課題	40
1	研究の成果	40
2	今後の課題	40
3	終わりに	40

〈主な参考文献〉

〈特別活動〉

仲間とともに進路を切り開く力を育てる学級活動 ～進路学習を意識した学級通信を利用した話し合い活動を中心に～

宜野湾市立嘉数中学 教諭 堀 田 朋 代

I テーマ設定の理由

現代社会の問題のひとつとして、フリーターやニートの増加があげられる。社会が大きく変化する中、就業・社会参加の意欲の低下、目的達成意欲の低下などが原因として考えられ、キャリア教育の必要性が増している。特に、学校生活を経て社会に進む中で、「自分自身がどう生きていくか」を考えさせ、目標に向かって生徒自身が成長することを援助する進路指導の役割は重要であると考えられる。

文部科学省のキャリア教育を受けた『若者自立・挑戦プラン』の中に、「児童生徒が進路を主体的に選択・計画し、その後もよりよく適応・進歩できる資質や能力を伸長する」ことがうたわれている。現代社会の問題点のひとつとしてあげられているフリーターやニートの増加という問題は、多くの場合、社会生活や人間関係への不適応、少子・高齢化の中で進路を考えることより進学を最優先に考える傾向にあること、また、親離れや精神的自立を促さないことが大きな要因としてあげられている。

文部科学省の『キャリア教育』や『若者自立・挑戦プラン』は、その解決のための施策であり、今後の進路指導の道筋を示している。「児童生徒が進路を主体的に選択・計画し、その後もよりよく適応できる資質や能力を伸長する」という指導のポイントは、社会生活を送る上で欠くことのできない要素である。そこで、環境によりよく適応・進歩できる資質や能力を伸張するため、学級活動の中で進路について考えさせ、生徒一人ひとりが、かけがえのない人生を送る存在として互いに認め合い向き合う姿勢を育てることが重要である。しかしながら、進路指導の現状は3年生に重点がおかれる事が多く、どの学校に進学するかか中心となり、生徒の悩みもどの高校に進学すべきかという学校選択の悩みに終始しがちである。進路相談の場面で一番感じることは、進路選択の中で「自分は何がしたいのか」などを、自分自身で真剣に悩んでいる生徒が少ないことである。自分自身の進路について自問自答する中で、自己の個性を発見し、それを生かしていこうという態度を育むことが自我に目覚めるこの時期の発達課題であるが、それがなされないまま進学・就職することが多いように思われる。

また、学級担任として進路指導にあたる時、学級活動の時間は学級の組織作り、行事のための準備や決め事などに費やされ、時間をかけて継続的に進路指導を行っていくことが難しい現状があった。そのため、「やりたいことがみつからない」という生徒の声に、十分に答えることができなかった。また、数年前から教育相談中に気になっていることのひとつに、傷つきやすい生徒が多くなっていることがあげられる。傷つきやすく、自己肯定感が持てず、絶えずまわりの評価を気にしていることは、生徒の心の土台が不安定になっている表れではないかと感じる。成功経験を積み、失敗への耐性を育て、受容され期待される中ではぐくまれ、何事かに取り組むときの出発点となるのが、心の土台となるものではないだろうか。心の土台となる経験を生徒に体験させることにより、よりよく生きたいという意欲を喚起させることが、私の学級経営における大きな課題ではないかと感じている。

その解決方法として、生徒の進路意識の育成から進路選択に到達するステップを意識した学級通信を発行し、授業に利用することで、中長期的な視野や目先の受検に振り回されず、じっくりと進路を考える姿勢を育てることに取り組みたい。また、エンカウンターによる集団体験学習で、自己理解を深め、自己肯定感を高め、生徒一人ひとりがかけがえのない人生を送る存在として互いに認め合い向き合う姿勢を育てることで、仲間とともに進路を切り開く力が育つであろうと考えて、本テーマを設定した。

II 研究目標

1. 進路学習を意識した学級通信を発行することにより、生徒の進路意識の育成から進路選択に到達するまでのステップを意識させることで、中長期的な視野を持ち、じっくりと進路を考える姿勢の育成。
2. 話し合い活動を行うことにより自己理解や自己肯定感を高め、生徒一人ひとりがかけがえのない人生を送る存在として互いに認め合い向き合う姿勢の育成。
3. 1年生を基礎として3年間を見通し、キャリア教育との関連を図った進路指導計画の見直し。

III 研究仮説

1. 基本仮説

話し合い活動の中で、進路学習を意識した学級通信を活用することで話し合い活動の内容の深まり、構成的グループエンカウンター（SGE）の集団体験学習を行うことにより自身のまわりの環境（人間関係や社会との関わりなど）によりよく適応できる資質や能力が伸長され、進路を切り開いていく力が育つであろう。

2. 具体仮説

- (1) キャリア教育の観点から進路学習計画を見直し、進路意識の育成から進路選択に到達するまでのステップを意識させる話し合い活動を行うことにより、進路を切り開いていこうという姿勢が育つであろう
- (2) 進路に関わる知識・情報を収集・活用することを意識した学級通信を発行し、その内容を話し合い活動に利用する事により、進路に関わる知識・情報の収集や活用しようという姿勢が育つであろう。
- (3) 構成的グループエンカウンターを授業に取り入れることで、生徒自身が新たな面を発見し、肯定的な自己理解が深められ、よりよい人生を送ろうという意欲が高まるだろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究内容

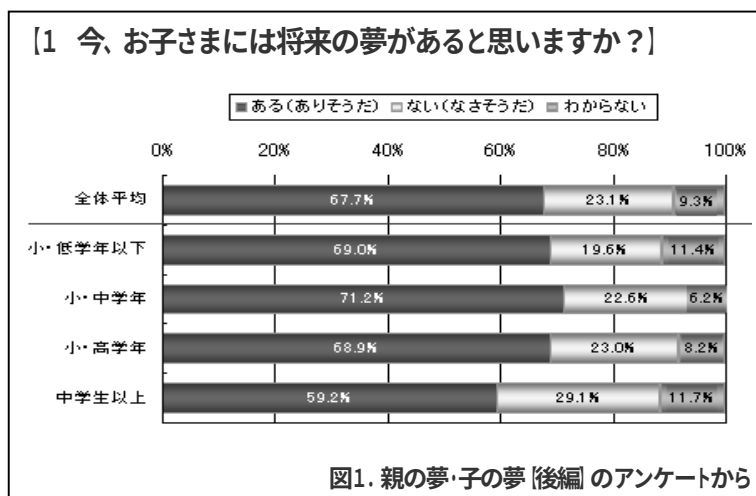
1 現在の進路指導について

中学校学習指導要領で、進路指導は人間としての生き方に関する教育の一環として位置づけられ、「生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように学校教育全体を通し、計画的・組織的な進路指導を行うこと」と示されている。つまり、生徒が自らの将来をどのように生きたいかをイメージさせ、その将来のプランをもとに生徒自身が今をどうすればよいのかを考えさせることが進路指導の目的となる。この将来を見通した計画の中で、今の自分がどうすればよいのかを考えさせる（生き方を考えさせる）援助を行うことが進路指導の役割である。

中央教育審議会答申の中でも「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」と述べられている。

進路指導の現状については、「国立教育政策研究所生徒指導研究センターの調査報告書」において、『従来、進路指導において、発達段階ごとに育成すべき能力や態度を設けて取り組まれることは少なく、それが進路指導の取組の計画性や系統性を曖昧にし、特別活動、各教科、道徳などの有機的な関連づけが進みにくい一因となっていると考えられる』と述べられている。実際、平成15年度中頭地区教育課程研究の概要（中学校・特別活動）の中にも、これまでの進路指導の課題として、「年間指導計画はあるが、計画どおり実施されていない」、「進路学習や進路に関する行事が単発で終わり、継続性がない」などがあげられており、系統的・継続的な進路指導がのぞまれているのではないだろうか。

2 進路を切り開く力の定義



生を比較すると、「夢がない」と答えた生徒は3年生には増えている。（1年生21%、3年生30%）卒業や受検を前にして、「職業選択」・「受検」などの現実的な状況を受け止めて、実現が難しい現実を知りつつある結果であると考えられる。

しかし、自分の生き方について考える（「よく考える」・「少し考える」を合わせて）という生徒の割合は、学年があがるにしたがい上昇している（1年：64.3%、3年：76.6%）ことから考えて、学年があがるにしたがって社会に目を向け始めていることも推察される。そこで、現実の大変さを知りつつもそれに立ち向かっていくことが大切になってくる。そして、周りに流されることなく「なりたい自分」をしっかりとイメージし、それを実現するための方法を考え、生き方を探究していく力が必要なのではないかと思っている。このような力を、「進路を切り開く力」と考えている。

その具体的な内容は、国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童・生徒の職業観・勤労感を育む教育の推進について」に記されている中学生段階における諸能力、つまり「人間関係形成能力」「情

報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」であり、それぞれの下位に分類される進路発達課題を達成することでその能力が育成されるとされているものである。そのことを考慮し、1年生を基礎として3年間を見通し、さらに、キャリア教育との関連を図った進路指導計画の見直しを行った。

3 進路指導計画の見直しについて

(1) 進路指導計画について

中学校学習指導要領で、進路指導は人間としての生き方に関する教育の一環として位置づけられ、「生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校教育全体を通し、計画的・組織的な進路指導を行うこと」と示されている。これらを踏まえ、学校現場で、生徒にどのような指導・援助を行うことが、進路指導計画を立案するためのポイントとなることは先に述べた通りである。

進路指導は学校教育目標などに基づいて学級活動における進路指導計画を立案していくが、進路指導の中心的な場である学級活動の年間計画などと関連づけるため、学級活動全体計画との融合を図り、進路指導全体計画に即して計画するとともに、生徒の進路発達段階や課題を踏まえながら、指導の目標や指導内容を設定し、題材や指導の時期を計画していかななくてはならない。特に、進路相談やキャリア・スタート・ウィークや高校訪問などの啓発的体験学習との関連などに配慮していくことが必要である。また、各学年の指導のねらいや指導内容については、学習指導要領などを参考にし、題材相互の関連を図りながら指導を系統化していくことがのぞまれる。

学校教育では、教科指導などは子どもたちの発達段階に応じて展開されている。しかし、進路指導では、そのことが十分に意識されて取り組まれてきたとは言い難い面がある。また、時代の変化とともに学校のみならず社会全体に生きることや働くことと学習内容を関係付けたり、発達段階に応じて支援したりする場や機会が乏しくなっていると思われるため進路指導の果たす役割は大きくなっている。

人間の成長・発達の過程には、いくつかの段階と各段階で取り組まなければならない発達課題があるが、こうした発達には、自己理解、進路への関心・意欲、勤労観、職業観、職業や進路先についての知識や情報、進路選択や意思決定能力、職業生活にかかる習慣や行動様式および必要な技術・技能などといったさまざまな側面が考えられ、中学校の3年間にスムーズで単一の流れをなすものではなく、生徒の発達段階や発達課題に応じて、日常の生徒とのかかわりを含めた学級活動の中で、吟味・修正しながら、繰り返し指導していくことが必要である。

(2) 生徒アンケートから見る進路指導計画の見直しの観点

進路指導計画を見直すことに関しては、指導にあたる教師側の意識だけで作成するのではなく、生徒が主体的に進路を選択するためのニーズに応える事も必要であり、生徒の進路意識に関するアンケート結果を参考にした見直しについて述べることにする。

(このアンケートは10月に実施。対象は1～3年生。全22クラスの中から、各学年2クラスずつアンケートを行い集計した結果である。)

①【生徒アンケート考察1】

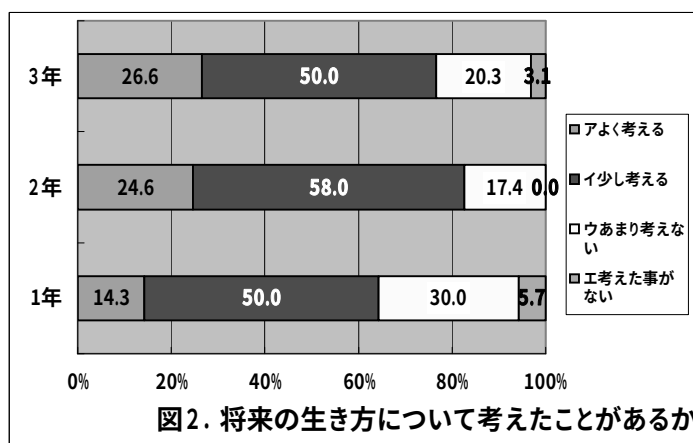


図2から「将来の生き方」を考えさせる経験を持たせる

進路指導は、生徒に自分はどう生きたいかを考えさせる援助をすることであると考えているが、現在その指導が十分に浸透していない可能性のあることが、アンケート結果から分かる。特に、1年生は将来の生き方を考える姿勢の素地を作る学年であり、しっかりと考える機会を与えることが必要である。

②【生徒アンケート考察2】

図3、図4から夢や希望を将来の職業に結び付けて考える指導が必要

夢や希望について「ある」と答えた生徒が全体の75%いるのに対し、将来なりたい職業が「ある」と答えた生徒は41%と低く、夢や希望を将来の職業に結びつけて考えていないのではないかと考えられる。特に1年生の段階では、夢や希望の延長線上に将来の職業をおいた夢や希望を膨らませる指導が必要である。

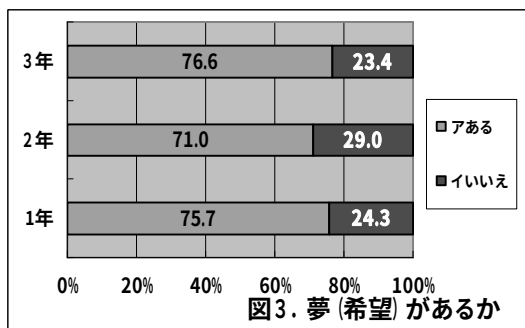


図3. 夢(希望)があるか

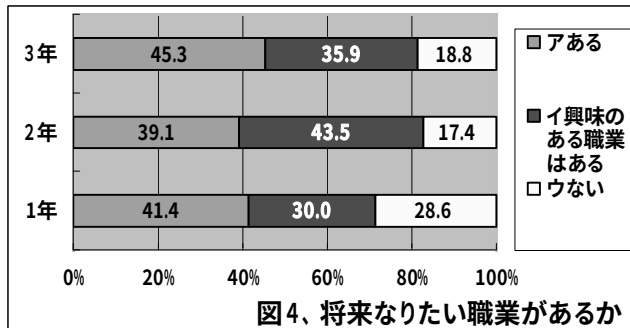


図4. 将来なりたい職業があるか

③【生徒アンケート考察3】

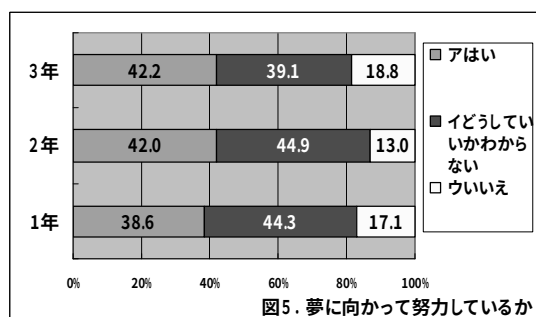


図5. 夢に向かって努力しているか

図5から夢や希望を実現するためには、どのような努力をすればいいかを考えさせる機会を設ける

夢や希望はあるが、どのように努力すればいいのかわからない生徒が多いことが、アンケート結果から分かる。夢や希望を実現させるために、計画の立て方や情報の収集の方法を学ばせる必要があると考えられる。

④【生徒アンケート考察4】

図6から上級学校の種類や内容について知らせる機会を設ける

上級学校の種類や内容については、1時間の授業の中ではなかなか理解させることは難しい。そのため、授業以外に、生徒にどのように伝達の機会を設けるかということを考える必要がある。

職業についてもどのようなものがあるかわからないと回答する生徒も多いため、同様に考える必要があると考える。学級通信や教育相談の中に定期的に取り入れていく方法も考えられる。

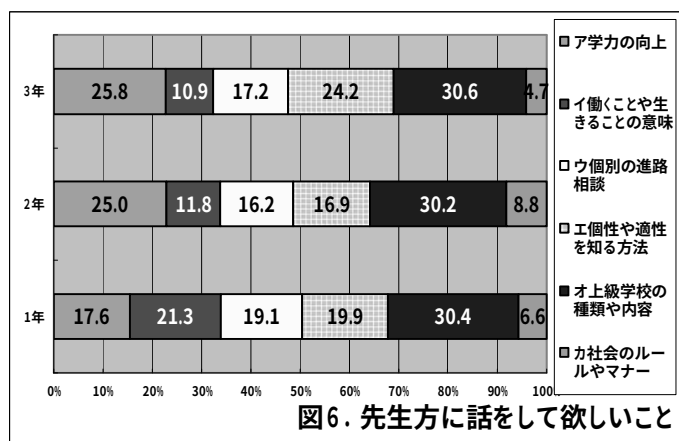


図6. 先生方に話をしたいこと

⑤【全国的なアンケート（中学を卒業した者へのアンケート）の考察】

図7は、平成11年3月に行われた文部科学省の「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書」にある中学校を卒業した者を対象にした「中学在学時に指導して欲しかった事柄」のアンケート結果をもとに作ったものである。

内容を見ると、中学校を卒業した後は、「中学在学時に指導して欲しかった事項」に「自分の個性や適性を考える学習」(51.9%)、「進路選択の考え方や方法」(36.1%)、「進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方」(32.8%)の3項目が上位を占めており、本校中学生のアンケート結果とは差異が見られる。

本校の中学生のアンケート結果は【アンケート考察4】にあるように、「上級学校の種類や内容について」話をしたいという回答が30.4%、「学力の向上の方法について」が22.8%、「自分の個性や適性を知る方法」が20.3%と上位を占めている。これらの差がでた原因は、中学校在学時は当面の進路選択である高校入試を意識して進学情報を求めていると思われるが、中学校を卒業した者を対象にしたアンケートの「中学在学時に指導して欲しかった事柄」の上位の項目（「自分の個性や適性を考える学習」「進路選択の考え方」「進路に関する情報の入手の方法とその利用の仕方」など）は、中学校を卒業した者の実感も含んだ長期的な観点に立った意見と考えられ、これらについても意識して指導を行う必要があると考えられる。

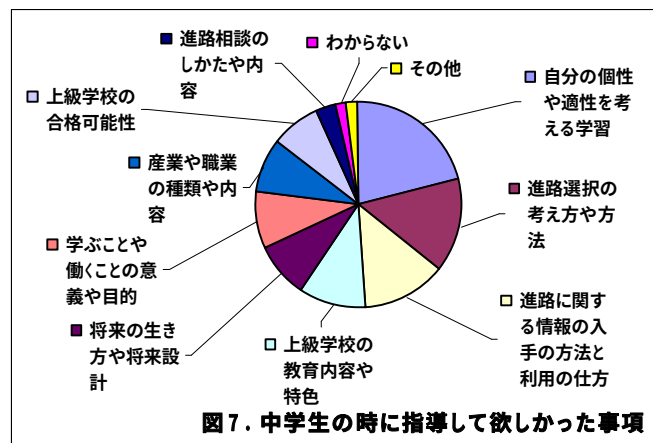


図7. 中学生の時に指導して欲しかった事項

えられる。

現在の進路指導は、生徒のニーズに応える形で進学情報の提供に重きを置く傾向があるのだが、「自分の個性や適性を考える学習」「進路選択の考え方や方法」「進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方」など、将来を考える基礎となることについても十分に理解させる必要がある。

図7は「中学校における進路指導の総合的実態調査報告書」より

(3) 保護者アンケートからみる進路指導

①【保護者アンケート考察1】

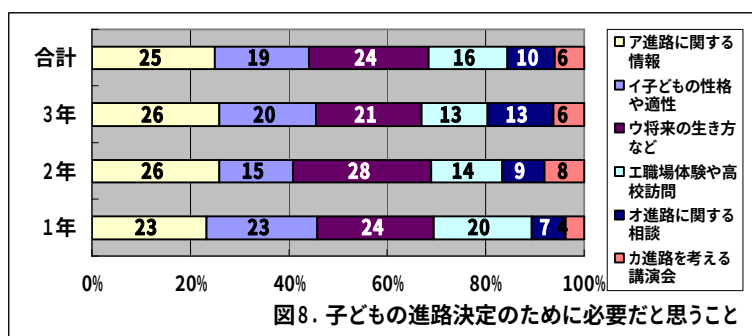


図8. 子どもの進路決定のために必要だと思うこと

図8からも、進路指導の観点を再確認できる。

保護者の考えとして「進路に関する情報」や「将来の生き方」「子どもの性格や適性」を進路決定に必要であるという結果が出ている。これは、先に述べた中学校を卒業した者に対するアンケートと同様の結果であるため、進路指導の観点として取り入れたい。

②【保護者アンケート考察2】

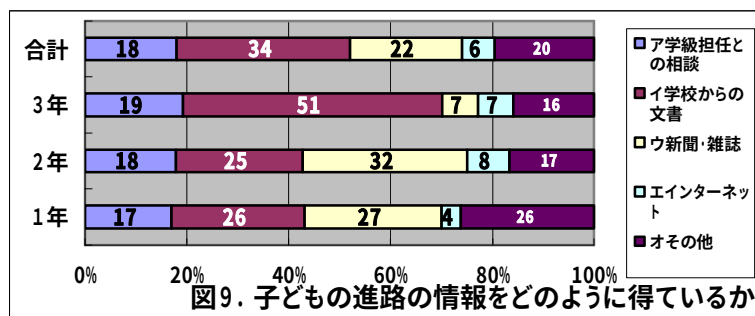


図9. 子どもの進路の情報をどのように得ているか

図9から、保護者との連携のために進路に関する情報提供を行う必要がある

「どのようにして進路の情報を得ているか」という問いに対して、1年生や2年生の保護者は新聞や雑誌という回答が多いが、3年生の保護者は学校からの文書という

回答が多い(51%)。本校では、3年生を対象に「進路便り」が発行されており、保護者への情報の提供に役立っていると思われる。また、進路指導を1年生から計画的に行ってほしいという保護者の要望もあり、1年生や2年生、その保護者を対象にした情報提供の方法を考えなくてはならない。その点でも、学校から出される通信、とりわけ学級通信や進路だよりなどの果たす役割は大きい。進路指導に役立てるといふ意図を持って計画的・継続的に発行するこれらの通信は、保護者との連携に役立つと思われる。

4 進路指導を意識した学級通信のあり方

(1) 学級通信について

学習指導要領では、特別活動の時間35時間程度のうち「(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること」と「(3)将来の生き方と進路選択に関すること」に、その2/3程度の時間をあてることになっているが、その時間だけでは学習が充実していかないという悩みがある。そのため、生徒が進路に関する考え方を作り上げることができる日常的・継続的な実践が求められている。学級通信は、生徒が比較的手軽に手にとることができる日常的・継続的に多くの情報を学級の生徒に発信できるものであり、学級担任が生徒と接する時間が少ない中学校で、学級通信は生徒と心を通わす有効な手立てのひとつであるといえる。それは、教師が生徒に自分のメッセージを伝える場となり、生徒が授業とは違った視点で教師やその考えを理解する場になるであろう。

また、思春期に入り保護者と話をしなくなるこの時期、生徒と保護者が家庭で読むことができ、話題を共有できる学級通信を発行することができれば、教師と生徒・保護者をより結び付け、協力と相互理解を深めることができるのではないだろうか。さらに、担任の手によりタイムリーに日常的教育活動を伝えることで、教師の考えを理解してもらう良い機会になり、保護者や生徒の声を授業に生かすこともできるというメリットがある。その結果、保護者も参加する進路学習を実践できるのではないかと。

保護者との連携の基本は生徒の実態の共通理解である。学級通信を通して両者の共通理解を図り、学校として、親として、生徒に何をすべきかをともに考えるための問題提起の場としての学級通信を活用したい。そのため、生徒の発達援助を学級通信作成のスタンスとし、学級通信を介して保護者を生徒支援のパートナーとして巻き込むことができるのではないかと考える。また、本校の保護者のアンケート結果を見ても、3年生対象の「進路便り」の果たす役割は大きいと、内容については、生徒の発達段階や進路学習計画を踏まえ、保護者の要望も取り入れて改善を図ることができるであろう。

さらに学級通信を発行するために、さまざまな視点から生徒をみることで生徒理解が深まり、教師の指導の過程を残す実践記録として大きな役割を果たすことになる。言葉と違って記録に残るものであり、繰り返し見直すことができることも実践の大きな助けになる。

(2) 進路学習を意識した学級通信の内容

学級通信は、単なる学校からのお知らせではなく、教師と生徒・保護者が語り合えるきっかけを与えてくれるものである。学級通信の内容に関しては、表1のように考える。

表1. 学級通信の内容

① 生徒の行事などを具体的に上げる
自分のことを知ったり知られたりすることによって、自分の置かれている立場を意識し、さらに他人の立場を考えていく事につながり、望ましい人間関係を作っていけるものとする。
② 学級の問題点などを上げる
学級で、話し合う材料の提供につながる。関心を持たせ、問題解決の手がかりを提供することにより、学級の問題をみんなで解決しようという雰囲気が作れるものとする。
③ 進路情報を取り上げる
進路情報は、生徒の必要に応じた情報であることが求められる。その発達段階や進路学習の過程に応じた内容を発信することで、進路に関して考える契機になると考える。

何か行動を起こす場合、そのことについて情報を収集する。何も知らない状態では不安で行動が起こせない場合もあるからであるが、より良い選択を行うために進路情報は生徒が意思決定する際に重要な役割を果たすと考えられる。たくさんの情報の中から目的を見出すことで、自分の目的がはっきりと形をなし、必要な情報を集めることで候補が絞られ、もっと詳しい情報を求めさせていく流れを作ることが進路情報の役割である。

進路という人生の重要な意思決定の場面にこそ、たくさんの情報が必要であり、進路に関する情報量を増やし、情報の質を高めていくことで、進路選択の幅が広がり、ともに生徒の可能性を広げ

このことを意識させ、学習を有意義に進めていけるようにするのが、「進路学習を意識した学級通信」の役割ではないかと考える。そのための進路学習を意識した学級通信の内容を表2の観点で分類して、授業内容などと照らし合わせて作成していくことにする。

- ①個々の生徒の必要に応じた情報
〈例〉高校や職業についての基本的な情報など
- ②生徒に自分のニーズに応じて情報を収集させるための情報
〈例〉どのように調べたらよいのかという方法の収集の仕方や役立て方
- ③「人生をどう生きたい」ということを考えさせる例
〈例〉スポーツ選手や企業家の話など

- ・新しい情報を流すことを心がけ、テレビや新聞などで、簡単に手に入る情報でない教育の情報を提供する。それは、意図的に実践研究を積むことにつながる。
- ・自己肯定観を高めるかかわりができるような内容を心がける。

図10. 学級通信例

進路に関する学校からの情報発信としての学級通信などの果たす役割が大きいことや進路学習を意識した学級通信の内容は先に述べたが、学級通信の効果的な活用方法について考えたい。

表3. 学級通信活用の流れ

- ①授業計画にそって関連する学級通信の内容を選定する。
- ②学級通信を作成し、進路学習前に生徒に配布する。
- ③学習ファイルに綴らせ、進路学習の授業の導入に使う。
- ④学級に進路学習コーナーを作り、学習の流れをたどれるようにする。
- ⑤月に一度ファイルを家庭に持ち帰らせて、家族と話をする機会を持たせる。
- ⑥ファイルで保護者の考えや生徒の考えを確認する。

2年生は「キャリア・スタート・ウィーク」に向けての取り組みを中心に、3年生は進学指導の一環としての取り組みを内容の中心に学年全体で進路指導を行っており、通信の内容もそれを核として

いくことになる。しかし、1年生は、その核となるこれといった取り組みがない。そのため、1年生での進路指導の取り組みについては、各担任に任せられている現状がある。そこで、本研究では、1年生の発達段階を考慮し、自己理解を深め、目標を見つけるための援助になる内容を意識して作成した。特に、生徒は、『ジョハリの窓』や『人物タイプテスト』、『頑張っている人の話』に多く興味を示していた。それらの話題から、学習を導入することで、興味・関心が高まり、スムーズに進路学習の内容に導入することができた。当初は、学級通信をなくしたり、持ってくるのを忘れてりする生徒も多かったが、回を重ねるごとに意識付いてきたように思える。また、学習ファイルを家庭に持ち帰らせることにより、学校での学習の様子を家庭に家庭からの意見を学校に届け、さらに、家庭で進路に関する話をする機会ができ、学校と家庭の連携にもつながる取り組みになっている。しかし、ファイルを家庭に持って帰らない生徒やファイルを持って帰っても忘れてくる生徒も多く、どのようにすれば家庭に確実に届き、学校に持ってこさせることができるのかを考えることが今後の課題となる。

(4) 学級通信への反応

研究教員として学級に不在ということもあるのかもしれないが、月に2回程度発行している学級通信を配布したらすぐに読み始める生徒たちの様子から、心待ちにしてくれているように感じる。そして、「先生はこんな風に考えていたんだ」や「先生はこういうことを自分たちにしてほしいんだ」などという声や次の学級通信の参考になる声も聞かれるようになってきた。(表4)

保護者の意見は、進路ファイルの「家庭からひとこと」の欄に書いていただいているた。生徒が持ち帰っている家庭の保護者からの反応も良く、多くの励ましや自分の子どもと進路について考えていきたいという言葉が寄せられている。(表5)

表4. 学級通信に対する生徒の反応

- ・「ジョハリの窓」が面白かった。いろんな自分を発見したい。
- ・進路について少しだけ考えるようになった。
- ・自分の夢を考えること、進路を考えることに役立っている。
- ・自分の目標(好きなこと)を達成した人の話など、もっと載せて欲しい。
- ・どんな仕事があるのとかを載せて欲しい。
- ・これからの進路を考えると、参考になる話を載せて欲しい。

表5. 学級通信や進路ファイルに対する保護者の反応

- ・具体的な目標を立てて、子どもと一緒に考えていきたいと思います。
- ・見ることができて安心しました。学級通信や進路指導のプリントを見て、早くから将来の職業を意識させて、とても良い取り組みをしている様子なのでびっくりしました。
- ・高校受検や就職の話など、機会があるごとに、先輩達の失敗談や成功談を話してあげてください。特に高校受検は、昨年度の校区改正などがあり不安ですから。
- ・ファイルを見ながら、子どもと学校や授業のことについて話をするすることができた。
- ・子どもと話をしたが、内容についてあまり理解していないようだ。もう少し丁寧に教えてください。
- ・1年生から、進路や職業について考えていくことは、とても素晴らしいと思います。もう一歩身近に感じられるように、話し合う場を持つことも良いのではないのでしょうか。
- ・学級通信を通して、子ども達に語りかけることは、よいことだと思います。続けてください。
- ・家では自分の意見を言わないので、子どもの考えていることが分かってよかった。
- ・このファイルの中に、とても参考になる事柄があるので、いつも見えています。

目的を持った学級通信を計画的に発行することで、生徒達の進路に対する意識に、「進路なんてまだ早い」から「夢や目標を見つけない」「進路について考え始めた」などの変化が見え始めている。また、学級通信を進路ファイルに綴り、家庭に持って返すことによって、学級での様子を知らせるとともに保護者の意見や要望も聞くことができ、保護者と連携して進路指導に取り組むことが可能であると実感している。

今後の実践では、保護者に参加してもらえらる紙面を作っていきたいと思っている。

5 構成的グループエンカウンター（SGE）の手法を用いた進路学習の工夫

（1）進路学習に構成的グループエンカウンターを用いる理由

構成的グループエンカウンターは、『共通の課題を解決しながら、対象になるグループのメンバーが互いに関係（リレーション）を深め「ふれあい」と「自己発見」を通して、集団体験による自己の成長を図る事を目的にしているカウンセリングの技法の一つ』（八巻寛治「エンカウンター実践テキスト1号」）である。そして、進路指導とは生き方を考えさせる事を目標にしている「育てるカウンセリングの代表例」（國分康孝編『進路指導と育てるカウンセリング』）であり、構成的グループエンカウンターと進路指導のねらいが合致している。そこで、進路指導を効果的に行うために、構成的グループエンカウターの手法を用いて進路指導を行うことにした。

次に、国立教育政策研究所が作成した「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み」に基づいた構成的グループエンカウターの利用について述べる。「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み」は、職業的（進路）発達に関わる諸能力の育成の観点から、その諸能力を「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の4つと位置付け、それを分類した能力説明には、構成的グループエンカウターのねらいとする能力の育成と関連する項目がある。それは、「人間関係形成能力」中の「自他の理解能力」と「コミュニケーション能力」、そして、「意思決定能力」中の「選択能力」である。これらは、構成的グループエンカウターを用いた指導により効果的に育成できるのではないかと考えている。

（2）進路学習に用いる構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウターのねらいは、大きく分けて2つであり、ふれあい（ホンネとホンネの交流）と自己発見（自分の思考・行動・感情への気づき）であり、考えの共有を図る場面や自己理解を深める場面で効果的に活用できるのではないかと考えている。そして、自己実現を図ろうとする時、その方法が分からないという生徒も多いことから、シェアリングにより色々な考えを知る手段としても活用できるのではないだろうか。また、ここでは、新しくエクササイズを開発するというよりも、出版されているエクササイズ集などを参考に、どの場面でどのようなエクササイズが有効であるかを考えていくことにする。

（3）中学生の発達段階と構成的グループエンカウンター

進路指導では生徒の発達段階を考慮して計画的に授業を組み立てることで、効果的な指導が行われると考えている。その際、変化の著しい中学校で3年間を、各学年を2つの時期（生徒の内面に大きな変化を生じる夏休みの前後）で区切って考えたい。それぞれの発達段階を踏まえた構成的グループエンカウンターについての考えを下記に述べる。

各学年とも取り組みを始めた頃は自己開示に抵抗があるため、ワークシートを選択式にするなどの工夫や〇〇テストの形式を利用し、生徒の心理に配慮することを忘れないようにしたい。

① 1年生前期〈入学～夏休み〉

小学校から中学校へ入学して、大きな変化に直面する時期であり、中学校への適応をスムーズに行わなくてはならない時期である。そのため、担任やクラスメートとの関係作りを中心に、構成的グループエンカウターの授業を取り入れる事が望ましく、構成的グループエンカウンターを行う素地作りや人間関係を築く上で重要なエクササイズを行いたい。また、自己開示に対しての抵抗感をやわらげるエクササイズを行う必要がある。

〈例〉「聞き上手・話し上手になろう」「話し合いのレッドカード」「私はだあれ？」など

② 1年生後期〈夏休み～3月〉

ほとんどの生徒は中学校生活にも慣れ、中学生としての生活も落ち着く時期である反面、入学時の希望に満ちた気持ちと現実とのギャップで挫折を味わう時期でもある。そのため、内面に揺れを感じる生徒たちに落ちついて自分自身を見つめなおさせ、目標を持たせるためのエクササイズが必要だと考える。シェアリングスキルの向上や具体的な例を考えられるエクササイズを行いたい。

〈例〉「シェアリング・ステップバイステップ」「竹の節目・私の節目」など

③ 2年生前期 〈進級～夏休み〉

1年生後期から引き続き生徒の内面の揺れの大きな時期である。しかしながら、この時期には、「キャリア・スタート・ウィーク」があり、自分を見つめなおし将来への展望を広げる大きな転機となる場合もあるため、その援助になるエクササイズを行いたい。

〈例〉「それってどんな自分?」「勉強で困っていることは何ですか?」「職場訪問のアポイントメント」など

④ 2年生後期 〈夏休み～3月〉

「キャリア・スタート・ウィーク」の取り組みも終わり、そのまとめの取り組みが必要となる。また、ほとんどの部活動では最上級生としての役目が始まり、生徒会活動でも引継ぎが行われ、リーダーとしての責任を感じ始める時期である。最上級生になるという自覚を促すとともに、3学年での進学指導につなげるための取り組みを行いたい。

〈例〉「職業人になりきって」「究極の高校選択」「私の発達曲線」など

⑤ 3年生前期 〈進級～夏休み〉

部活動や生徒会活動、行事でも、リーダーとして活躍する反面、リーダーの責任を十分果たせなかったり、勉強面での現実をつきつけられ、不安になる生徒の増える時期である。そのため、自分自身の現状を見つめなおさせたり、将来の目標などを再確認させたり、自分の価値観を確認させる取り組みを行いたい。

〈例〉「ハウレンソウと提案」「私の価値観」「私は高校セールスマン」など

⑥ 3年生後期 〈夏休み～卒業〉

部活動を引退し、行事などでもリーダーの役目を終え、中学生生活のまとめの時期である。また、本格的な受験勉強に入り、生徒たちは自分自身のことだけに目を向けがちになる。周囲に目を向け、自分自身が支えられていることや、自分自身が周囲からも認められていることを自覚させる取り組みをしたい。

〈例〉「迷える子羊と宝探し」「私は面接官」「別れの花束」など

これまで述べた①～⑥に例としてあげた構成的グループエンカウターのエクササイズは、『構成的グループエンカウター エクササイズ 50 選』（吉澤克彦編著）、『エンカウターで学級が変わる Part② 中学校編』國分康孝監修、『エンカウターで進路指導が変わる』（片野智治他6名編集）の中に紹介されているものである。

VI 授業実践

1. [検証授業1] について

- (1) 日 時：平成18年1月19日（木）5校時
- (2) 対 象：1年3組 男子18名 女子19名
- (3) 題材名 「好きなこと・したいこと」
- (4) 題材設定の理由

① 教材観

現在、ニートやフリーターの増加が社会問題となり、キャリア教育の重要性が高まっている。文部科学省においても、初等中等教育におけるキャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」とし、進路指導をその中核として位置付け、キャリア教育を推進している。

心身ともに大きく変化する時期であり、自己の生き方を考え始める時期であると言われている中学生の時期のキャリア教育は重要であり、3年間のキャリア教育のスタートラインに立つ1年生には、進路学習は夢や希望を育む学習、そして、夢や希望をどのように実現させるかを考える学習であって欲しいと考えている。

昨年行ったアンケートで、「夢や目標を持っている」と答えた生徒は約8割いるのに対して、「夢や目標をかなえるための努力をしている」と答えた生徒は少なかった。そこで、将来に夢を膨らませると同時に、実現に向けて努力をするための手立てを考えさせる経験が必要であると考え。そこで、暫定的な夢や目標を持ち、それを実現させるために何か必要なのかを考えさせる経験をもたせることにより、主体的に将来を選択する姿勢が育つと考え、本題材を設定した。

② 生徒観

10月から月に一度の進路学習に取り組んできた。1学期から自分の進路について考える必要性を話してきたつもりだが、当初は「進路学習」という言葉になじめず「1年生なのに」「まだ早い」等の声が聞かれ、進路に関する意識の薄さを実感した。その後、進路学習にエンカウターの手法を取り入れることで、だんだん抵抗感が薄らいできたように思う。しかし、自分の将来について真剣に考え始めている生徒がいる反面、ほとんどの生徒が高校へ進学する現状からか「高校に行ってから考えればいい」という考えの生徒も多い。

自分の進路について考えて欲しいという願いから学級通信を発行しているが、配布時は手にとって読むのだが、進路を考えることと結びつけて考えられていない現状があり、配布方法や授業での利用の仕方、学級での掲示方法を工夫することで、少しずつ意識付けを行っている状況である。

もともとあまり自分の意見を発表することの苦手な生徒も多いことや、エンカウターの授業を定期的に行いはじめてまだ3ヶ月ということもあって、うまく自己開示ができない生徒もいるが、進路学習を定期的に行うことで、自分の進路に関して興味を持ち始めている生徒は増えてきているように感じる。

しかし、夢や目標を持つてはいてもそれを実現させる方法がわからないという生徒も多く、夢や目標の実現のための手立てを考えさせる経験をもつことで、長期的・計画的な考え方を理解して欲しいと考えている。

③ 指導観

現在、高校進学率が97%を超え、進路選択といえばどの高校に進学するのかが関心事となり、生徒たちの意識の中でも進路の選択といえば高校進学のことと捉えがちな現状がある。また、「将来どのような職業につきたいか」と生徒に聞くと、「なんとなくだけど公務員」「考えたことがない」という答えがかえってくる。その原因を考えると、世の中にどのような職業があるのかを知らないということもあるが、仕事に夢を持って生きている人がたくさんいるということを知らないことが大きな原因ではないかと考える。

進路選択は、高校を選択する・職業を選択するという単純なものではなく、将来の生き方の選択である事を理解させ、中・長期的な視野で進路を考える姿勢を育てたい。そこで、「自分が何をしているときが楽しいのか」「どんなときに幸せを感じるのか」などを考えることで、どのような職業に就きたいということを考えさせ経験をもたせるために、今回の授業では将来の生き方に関する学習の一環として、将来の生き方を考えるために大事な自分の興味・関心の方向性を確認させたい。

(5) 指導計画

日時	内 容	ね ら い	教 師 の 支 援
10 月	進路に関する意識調査アンケートの実施	生徒・保護者の実態把握	実施のねらいを理解させる。
10/28	目標を持つ	目標を持つことの重要性を理解させ、目標に近づくための方法を考えさせる	SGE を用いて和やかな雰囲気を作り、自己開示を促す。身近な手本を探すようにアドバイスをする。
11/25	自分の興味のある仕事につく方法などを調べる	社会の中にはたくさんの仕事があり、色々な役割を果たしていることを知らせる。また、自分で調べる方法を試させる。	インターネットで検索するためのサイトや方法を知らせる。また、今後の利用についてもアドバイスする。
12/ 8	色々な価値観を知る	自分や他の生徒の価値観の方向性を知り、自己理解・他者受容を深めさせる。	SGE を用いて和やかな雰囲気を作り、自己開示を促す。価値観に正誤はないという事を理解させる。

1/19 本時	好きなこと・したいこと	自分の興味・関心や生き方の方向性に気づき、将来について考えさせる。	SGE を用いて和やかな雰囲気を作り、自己開示を促す。自分の興味・関心を生かすことを考えさせる。
2月	進路計画を立ててみよう	暫定的な進路計画を立てさせる。	長期的な視野にたって計画を立てることの重要性を理解させる

(6) 検証授業までの授業実践の記録

エンカウターの授業を行う場合、ただ1回の授業実践で効果が現れるというのではなく、計画的・継続的な指導を実践することにより、効果が徐々に現れるものである。そこで、月に1度の進路学習を次のように実践してきた。

①第1回授業実践（日時：平成17年10月28日 5校時）

ア. 題材名……………『目標を持つ』

イ. 資 料……………学級通信例1

ウ. 構成的グループエンカウター例……『先輩の姿から学ぶ』

「体育祭終了後という時期を利用して、「すごいな」と思う先輩を探し、それを目標にして、2年後の自分の姿を想像させる。その後、グループ内で発表させ、思いを共有する。目標を持てたら、まずは、目標になる人を探し真似をすることで目標に近づけることを指導した。

エ. 生徒の反応（授業後の感想から）

「具体的な目標を持っていた方が良いということが分かった。」
「なりたい先輩をはじめて考えて、先輩を目標に頑張りたいと思った。」
「自分で2年後までにやりたい目標ができたので、良かったです。」
「みんなそれぞれ色々な考えがあつていいなと思いました。今日聞いた中でいい意見があつたら、それを真似したいです。それと、自分の目標が立てられたから良かったです」
「自分がなりたいと思う人やなってみたいと思う人を目標にする事が大切だと思いました。」

②第2回授業実践（日時：平成17年11月25日 4校時）

ア. 題材名……………『自分の興味のある仕事を調べよう』

イ. 資 料……………学級通信例2

ウ. インターネット使用……『13歳のハローワーク』公式ホームページや「職業データベースの世界へようこそ」などのホームページで、自分の興味のある仕事につくためにどうすればよいかを調べ、ワークシートに記入する。時間がなくてあまり調べられなかった生徒は、この後も進路室や図書館を利用していろいろな情報を手に入れることができる事を指導した。

エ. 生徒の反応（授業後の感想から）

「仕事がたくさんあるのがわかった。」
「今まで仕事について調べたことがなかったから、楽しかった。」
「調べながら、仕事につくって大変なんだなと思った。」
「関連したいろんな仕事の事もわかったから良かった。」

③第3回授業実践（日時：平成17年12月8日 5校時）

ア. 題材名……………『自己理解・他者理解』

イ. 資 料……………学級通信例3

ウ. 構成的グループエンカウター例……『いろいろな価値観を知ろう』

「自分の価値観を知るワークシートに自分の考えを記入させ、自分の価値観がどのような傾向があるのかを考えさせ、それをグループで発表することで、いろいろな価値観があることを知らせる。価値観には、どれが正しいとかどれが間違っているということはないということを指導した。

エ. 生徒の反応（授業後の感想から）

- 「自分がこんな傾向であるとは思わなかった。」
 「みんなの結果を聞いて、びっくりしたり、そうだなと思ったりした。」
 「いろんな考え方があるんだなと、あらためて思った。」

（7）本時の学習

① ねらい

自己理解を深め、将来どんな生き方をしていきたいのか、どんな仕事をしていきたいのかを考えるために、「自分の興味・関心」がどのような方向に向いているかを確認させる。また、他の生徒の考えを聞くことで、色々な考えがあることを知り、他者受容を深めさせる。

② 授業の仮説

- ア. 構成的グループエンカウンターを授業に取り入れることで、自分の新たな面を発見し、肯定的な自己理解が深まり、より良い生活を送ろうという姿勢が育つであろう。
 イ. 興味・関心の方向性を知ること、進路計画作成への意欲が高まるであろう。
 ウ. 事前に発行した学級通信を読むことで、授業に対する理解が深まるであろう。

③ 本時の展開

授業の流れ	活動・指導内容		◎指導・援助の留意点 ●評価（方法）
	生徒の活動	教師の働きかけ	
導入 10分	○教師の話聞く	○学級通信の内容に触れながら、今日の授業の目標について説明する	◎今日のエクササイズは、自分の進路を見定めるために重要な事であると伝えるようにする
展開 30分	○教師の話聞く ○教師の話聞いて気づいたこと感じたことを発表する ○自分が「好きだ」「やってみたい」と思うことをワークシートにそって書き出す。 ○グループを作り、順番にインタビューをする ・「あなたは何か好きか」 ・「何がやりたいか」など ○聞いたことをワークシートにまとめ、感心のメッセージを書く	○自分の体験を話す ○気づいたことや感想を述べさせる ○生徒の考えをワークシートに記入させる ○それぞれのグループ内で発表させる。（インタビュー形式をとり、発表者に質問を受けさせる形で、グループ内で発表させる） ○インタビューした内容をワークシートに記入させ、「感心のメッセージ」を書かせる	◎教師の自己開示が生徒のモデルとなるので、簡潔に話をする ●真剣に話を聞いているか（表情など） ◎「よく気が付いた」等と誉める ◎ワークシートに記入中は、机間指導を行いながらアドバイスを ◎書けない生徒には、そばによって一緒に考える ●グループの生徒の考えを尊重しながら、意欲的に活動しているか（表情・話し合いの様子） ◎感心のメッセージは、良い事を意識して書くようにさせる。
まとめ 10分	○「振り返りのワークシート」を記入する ○教師の話聞く	○「振り返りのワークシート」を記入させ、今日の授業を振り返らせる ○今日の授業のまとめをする	●振り返りのワークシートに真剣に取り組んでいるか（ワークシートや記入の様子） ◎あまり教訓めいた話にしないようにする

④ 本時の評価

- ア. グループ内で生徒が意欲的に活動できたか。
 イ. 生徒が自分や他の生徒の新たな面（良い面）を発見できたか。

⑤資料

1年3組学級通信

さんくみ

発行 1年3組担任 山城綾乃 堀田朋代

またまた、おじゃましました

～とっても楽しい授業でした～

by HOTTY

各グループとも、個性を発揮しましたね。

- ・とてもいいねいに課題に取り組むグループ。
- ・リーダー(?)を中心に頑張ったグループ。
- ・大胆に挑戦するグループ。
- ・声を掛け合いチームワークの良いグループ。
- ・とても頭を働かせているグループ。
- ・みんなが意見を出しているグループ。 など

みんなで作戦を考えて話し合う姿勢や声を、かけあってチームワークを発揮する姿を見て、とても嬉しく思いました。これが3組の本当の姿だと思います。

19日の授業でも、またこの雰囲気で作成できたらしいなと思っています。

でも、フライング気味のグループも多かったので、授業を受けるときのルールは忘れないでほしいですね。

フリースロー大会

☆☆☆大健闘☆☆☆

先週行われたフリースロー大会で、女子は三位、男子は四位と、とてもよい成績を上げることができました。

二組は、だめだよ。という声も聞かれた。学期後半からくくくべと、ダンスで良い雰囲気になつていいるのではないだろうか。

今日、教頭先生が三組の授業におじやまして、お話をしたようですが、とても楽しかったとおっしゃっていました。

これも三組の雰囲気が良くなつていいる証拠だと思います。

一年生も残り三ヶ月をりました。

良い思い出を作つていきましようね。

「命が輝くこと」

それは、・・・

東映太秦(ウズマサ)映画村って知ってますか？

京都にある映画のテーマパークです。ここには、「映画作り」という夢を追い続ける人たちがいます。

テレビが急激に普及した頃、映画の人気はなくなりました。映画が作られなくなると、俳優さんたちの仕事がなくなるだけでなく、大道具さん、衣装さん、撮影さんなど、映画を作る為のいろいろな仕事をする人たちの仕事がなくなるということになり、たくさんの方が悩みました。

「日本の映画という文化の良さを、たくさんの人に伝えたい！」という熱い思いから生れたのが、この東映太秦映画村です。

1975年に映画村はオープンし、最初の3日間の売り上げは、6000万円(今のお金約1億4千万円くらいかな)。当時映画を作るのに3千万円くらいかかるので、映画2本のお金を3日間でかせいだ事になります。そして、また映画を作れるようになりました。

映画を愛し、映画に夢を抱いて生懸命に生き残りをかけている人たちが取り組んでいる事業が、この映画村なのです。

右に紹介した福本さんも、映画村のイベントに出演しています。映画を復活させてくれた映画村への恩返しだと思います。

福本さんは、こう言っています。

「どんな事でも一生懸命やること。人が見ていないところでどのくらい頑張れるか。どこかで自分のがんばりが誰かがみってくれる。見ている人が絶対にいる。」

こんな生き方から、

一生をかけることのできる夢が見つかるのではないかと思います。

日本一の切られ役

「ラストサムライ」という映画で、日本の時代劇の良さが見直されています。渡辺謙や真田広之といった有名な俳優さんが出演していましたが、福本清三という人がトム・クルーズの進軍役で出演していたことは、みんなは知らないでしようね。

この人は、「日本一の切られ役」と言われる人で、顔は知っている人もいいるかもしれないね。悪役として、正義の味方にもバツサリと切られて、画面に映るのはほんの何秒かという短い時間ですが、それでも、映画の世界に生きる事を「命が輝くこと」だと言っています。



福本清三さんとは、この人です。

この顔に見覚えはありませんか？

図11. [検証授業1] で使用した学級通信

「日本一の斬られ役」といわれる福本さんについて紹介。名前も載らない脇役を40年以上も務めてこられた理由を考えさせる。

『好きなこと・してみたいこと』ワークシート

1年3組 番 氏名

1. 次の言葉の間に入る言葉を、どちらかのパターンで思いつくだけ書いてみよう。

Aパターン⇒「わたしは (ぼくは) ○○○が好きだ。」

Bパターン⇒「わたしは (ぼくは) △△△をしてみたい。」

Aパターン (例) わたしは、料理がすきだ。

→

→

→

→

Bパターン (例) わたしは、本をあつかう仕事をしてみたい。

→

→

→

→

あまり難しく考えないで、思いついたことを書いてね。

私が思ったあなたのスゴイ (よい) 所は、ここだ!!

グループのみんなの話を聞いてメモをとりましょう。発表が全部終わったら「感心のメッセージ」を書きましょう。みんなのいいと思ったことは・・・

好きなこと・してみたいこと	好きなこと・してみたいこと
さんの	さんの
さんの	さんの
さんの	さんの

「感心のメッセージ」を書こう

(グループのみんなのよい点を見つけよう)

さんのすごい (よい) ところは、ここです。それは、

さんのすごい (よい) ところは、ここです。それは、

さんのすごい (よい) ところは、ここです。それは、

さんのすごい (よい) ところは、ここです。それは、

図12. [検証授業1] で使用したワークシート

2. [検証授業1] の授業研究会

(1) 授業者の反省

生徒はとても頑張ってくれていたが、「失敗した」というのが正直な気持ち。授業を指導案通りに終えるべきか迷っていた。授業をしながら、以前の研究授業のことが頭に浮かんできた。その時も、最初に説明したことが、生徒の頭の中で後半の授業展開につながらなくて、途中から苦勞した。もう少し丁寧に授業の導入時に説明すべきだったと思う。途中、意図する方向とは別の方向に生徒の意識がずれた時、方向修正をすべきだと判断して、指導案通りの授業を打ち切ったことはよかったのかどうか。

また、普通の学級活動の授業では、日常生活の中での事前指導が細かくできるのだが、このように飛び込み授業に近い形での授業は、難しかった。

(2) 意見および感想

- 「失敗」とは思わない。とても難しい授業であるが、とても大事なことを学ぶことのできる授業であった。これからの、特に来年の職場体験時の1年3組の生徒達がどのように活躍するのか、期待している。
- 最初は、「進路なんてこんなには早くから考えなくてもいいのではないか」という意見も多かったが、先生の授業を受けていくうちに、自分の進路について考える生徒が増えてきたように思う。朝の読書の時間などにも、職業についてかかれているものを読んでいる生徒もいるし、学級通信などももらったその場で真剣に読んでいる。まだ、あまり表面にはでていないが、生徒たちの内面はきっと成長していると思う。
- 研究目標の3にある「1年生を基礎とした3年間を見通したキャリア教育の計画」というのは、本当にこれから考えていかななくてはならないことだと思う。その意味で、このような授業を行うことは大事だと思う。
- 生徒の状態を見て、これではいけないと感じた時に授業を進めず、いったん授業を止めて全体の前で再確認をしたのはさすがだと思った。

(3) 指導助言

授業としては失敗だとはいえないが、あえて失敗だということでその原因を考えると、2つの観点から考えられる。

1つ目は、それだけテーマが難しいということ。進路指導は特別活動や他の分野とも関連させて、系統だった指導をしていくことが重要である。中学1年生の幼さが想像以上であることからして、中学校の3年間の成長はとても大きいはず。その中で、1年生の授業としてどのようなものが効果的なのかを考えながら、学年全体として共通認識を持って、普段から指導することが大事。

2つめは、流れの中での問題。構成的グループエンカウターのワークシートは、書き込み式のものでは抵抗感があるのではないかと。○・×式などを先にすると入りやすかったのではないかと。この問題などは、エンカウターの工夫として研究する必要がある。また、日常生活のいろいろな場面で指導しながら授業ができないのはやはり難しいという事がいえる。

進路学習は、それだけを独立して考えがちだが、学級活動の一環として位置付けられる活動である。また、社会現象としておかしいなということが起こっている現在、適切な指導を考える時期にきているのではないかと。このような進路指導の実践を広げていければと思う。

3. [検証授業2] について

[検証授業2] は、指導案通りに授業ができなかった [検証授業1] の失敗の原因を検討し、同じ題材でその原因に対処するための工夫をした授業である。授業の流れは、[検証授業1] の通りではあるが、指摘のあったワークシートを生徒が具体的に捉えやすい内容に変更し、改めて授業を行った。

(1) ～ (4) および (6) …… [検証授業1] と同内容なので〈省略〉

(5) 指導計画……前時までは検証授業1と同内容なので〈省略〉

日時	内 容	ね ら い	教 師 の 支 援
1/19	好きなこと・したいこと	自分の興味・関心や生き方の方向性に気づき、将来について考えさせる。	SGE を用いて和やかな雰囲気を作り、自己開示を促す。自分の興味・関心を生かすことを考えさせる。
1/27 本時	好きなこと・したいこと（検証授業のやり直し）	自分の興味・関心が生き方の方向性に気づき、将来について考えさせる。	SGE を用いて和やかな雰囲気を作り自己開示をしやすいワークシートを使用して、自分の興味・関心を生かすことを考えさせる。
2 月	進路計画を立ててみよう	暫定的な進路計画を立てさせる。	長期的な視野にたって計画を立てることの重要性を理解させる

(7) 本時の学習

① ねらい

自己理解を深め、将来どんな生き方をしたいのか、どんな仕事をして生きたいのかを考えるために、「自分の興味・関心」がどのような方向に向いているかを確認させる。また、他の生徒の考えを聞くことで、色々な考えがあることを知り、他者受容を深めさせる。

② 授業の仮説

ア. 構成的グループエンカウンターを授業に取り入れることで、自分の新たな面を発見し、肯定的な自己理解が深まり、より良い生活を送ろうという姿勢が育つであろう。

イ. 興味・関心の方向性を知ることで、進路計画作成への意欲が高まるであろう。

ウ. 事前に発行した学級通信を読むことで、授業に対する理解が深まるであろう。

③ 本時の展開

授業の流れ	活 動・指 導 内 容		◎指導・援助の留意点 ●評価（方法）
	生徒の活動	教師の働きかけ	
導入 10 分	○教師の話を聞く	○これまでの授業の流れを振り返り、今日の授業の目標について説明する	◎今日のエクササイズは、自分の進路を見定めるために重要な事であるということが伝わるようにする
展開 30 分	○教師の話を聞く ○教師の話を聞いて気づいたこと感じたことを発表する ○自分の考えをワークシートにそって書き出す ○グループ内で、順番にインタビューする形で質問をする ・「あなたは何タイプですか」 ・「その中で興味のある仕事は何ですか」 など ○聞いた事をワークシートにまとめ、「感心のメッセージ」を書く	○教師の体験を話す ○気づいたことや感想を述べさせる ○生徒の考えをワークシートに記入させる ○それぞれのグループ内で発表させる。（インタビュー形式をとり、発表者に質問を受けさせる形で、グループ内で発表させる） ○インタビューをしたことをワークシートに記入させ、「感心のメッセージ」を書かせる	◎教師の自己開示が生徒のモデルとなるので、簡潔に話をする ●真剣に話を聞いているか（表情など） ◎「よく気が付いた」などと誉める ◎ワークシートに記入中、机間指導でアドバイスをを行う ◎書けない生徒には、一緒に考える ●グループの生徒の考えを尊重しながら、意欲的に活動しているか（表情・話し合いの様子） ◎「感心のメッセージ」は、良いことを意識して書くようにさせる。
まとめ 10 分	○「振り返りのワークシート」を記入する ○教師の話を聞く	○「振り返りのワークシート」を記入させ、今日の授業を振り返らせる ○今日の授業のまとめをする	●「振り返りのワークシート」に真剣に取り組んでいるか（ワークシート記入の様子） ◎教訓めいた話にしない様にする

④ 本時の評価

ア. グループ内で生徒が意欲的に活動できたか。

イ. 生徒が自分や他の生徒の新たな面（良い面）を発見できたか。

⑤資料

表5. 授業で使ったワークシート

「興味のあること」って

1. 「あなたはどんな人？」のテスト結果は
()に興味があり、() 的で () な
人である () タイプだ。

2. どんな仕事に向いているとかかれていたか？
興味のある順番に3つ書きましょう。
① ② ③

3. なぜ、興味がありますか？
①
②
③

4. 3の仕事に就くためにどのような努力が必要だと思いますか？いくつか
も次の中から選んで○をつけよう。
①勉強を頑張る ②その仕事について調べる
③その仕事に関する勉強ができる高校や大学・専門学校に行く
④今からその仕事の練習をする
⑤社会のルールを守る ⑥時間のけじめをつける
⑦みんなと協力する ⑧その他 () 詳しく

5. 苦しくても仕事を続けていくために必要なものは、何だと思うか？

写真1. グループでの発表の様子



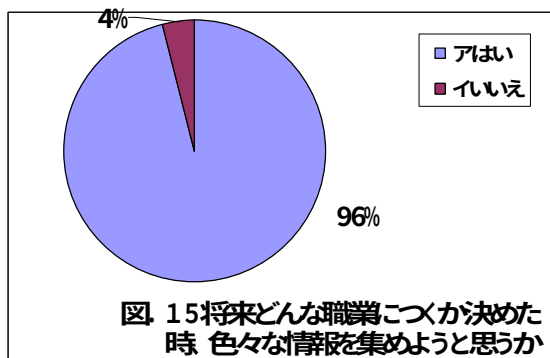
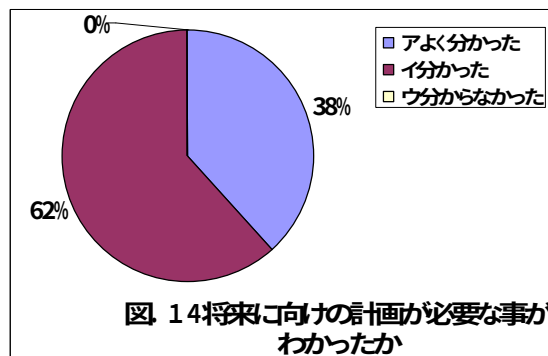
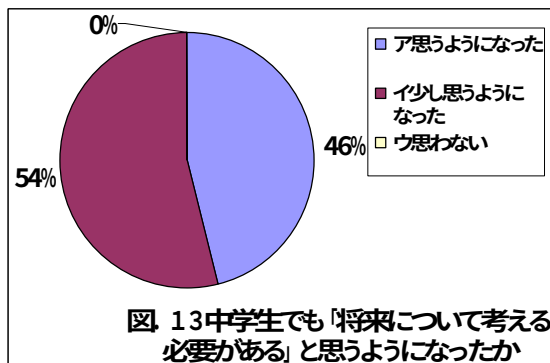
写真2. ワークシート記入の様子



4. 分析及び考察

(1) 具体仮説1の検証

キャリア教育の観点から進路学習計画を見直し、進路意識の育成から進路選択に到達するまでのステップを意識させる話し合い活動を行う事により、進路を切り開いていこうという姿勢が育つであろう。



昨年10月は、「将来の生き方について考えた事があるか」に対して、36%の生徒が「考えない・あまり考えない」という回答であったが、1月の「中学生でも将来について考える必要があるか」(図13)には、全員必要があると考えようになったと回答している。また、将来についての計画の必要性に関して(図14)、全員が「よく分かった・分かった」と回答している。そして、自分の進路を考える中で、情報を集める必要性を感じている様子が図15からも分かる。

記述式のアンケート結果でも、「自分を見つめ直すことができた」「将来について考えることができた」「将来の事を考えていなかったが、今日も将来に続いているんだと思った」「これからいろんなことに興味を持って、進路を決めていきたい」という言葉があり、進路について前向きに考えはじめ

ていることが分かる。つまり、3年間で育てるべき「なりたい自分をしっかりとイメージし、それを実現するための方法を考え、生き方を探求する」という「進路を切り開いていこうという姿勢」が、1年生のこの時期に育ちつつあると考えられる。

(2) 具体仮説2の検証

構成的グループエンカウンターを授業に取り入れることで、生徒自身が新たな面を発見し、肯定的な自己理解が深められ、よりよい人生を送ろうという意欲がたかまるであろう。

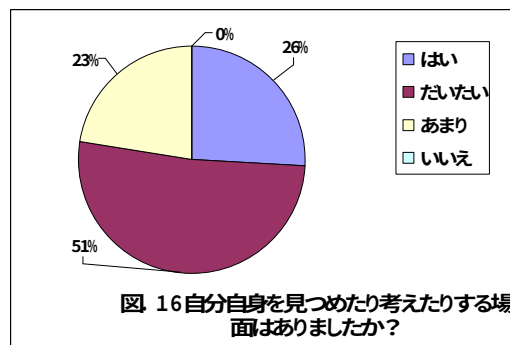


図 16 自分自身を見つめたり考えたりする場面はありましたか？

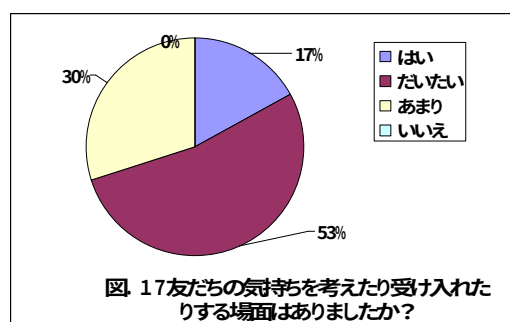


図 17 友だちの気持ちを考えたり受け入れたりする場面はありましたか？

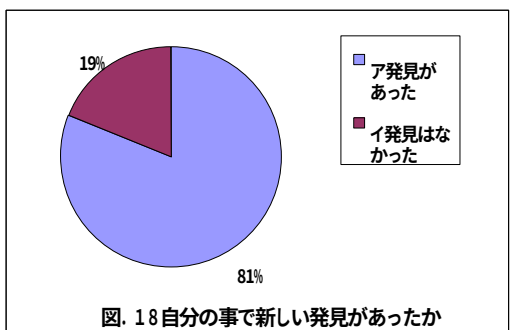


図 18 自分の事で新しい発見があったか

構成的グループエンカウンターの授業の中で、「自分自身を見つめたり考えたりする場面があるか」(図16)で、「はい・たいはい」が77%、「友だちの気持ちを考えたり受け入れたりする場面があるか」(図17)は、「はい・たいはい」が70%、それぞれ「いいえ」と答えた生徒がいないことから、「自分自身を見つめたり考えたりする場面」や「友だちの気持ちを考えたり受け入れたりする場面」を設定できることがわかる。

また、81%の生徒が「自分の事で新しい発見があった」と回答しており、構成的グループエンカウンターの授業を行うことは、自己理解を深める事に有効だとわかった。それが、肯定的な自己理解かということだが、自分にも周りにも厳しい見方をすることの多い時期の生徒であるので、ちょっとしたことでも良い点だと話した。その後の挙手による確認では、ほとんどの生徒が「自分や友人の良い点を見つけられた」と挙手していたことから、良い面の発見に注目した授業との併用で、さらに効果があがると思われる。

「よりよい人生を送ろうという意欲」に関しては、記述式のアンケートで、「自分の良い所や自分が他人の役に立っているなど、プラス思考で考えたい」「自分がやりたい仕事を見つけて頑張っていこうと思う」「誰にも負けない努力をして、目標を達成しようと思う」といった前向きな回答が全体の83%もあり、構成的グループエンカウンターの授業は、「よりよい人生を送ろうという意欲」を喚起するのに役立っていることが分かる。

(3) 具体仮説3の検証

進路に関わる知識・情報の収集・活用を意識した学級通信を発行し、その内容を話し合い活動に利用する事により、生徒に進路に関わる知識・情報を収集・活用しようという姿勢が育つであろう。

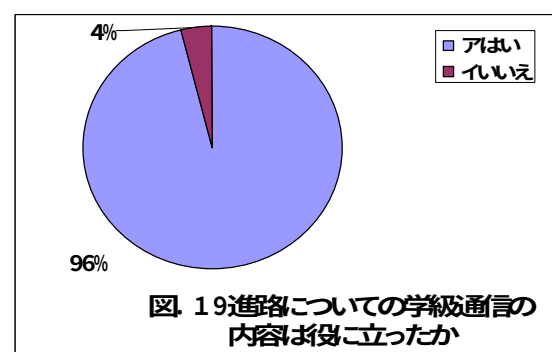


図 19 進路についての学級通信の内容は役に立ったか

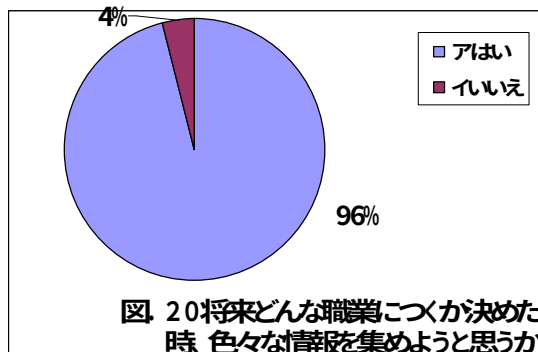


図 20 将来どんな職業につくが決めるとき 色々な情報を集めようと思うか

進路に関する情報を載せた学級通信に関してのアンケート（図19）では、96%の生徒が役立つと答えており、「4 進路指導を意識した学級通信のあり方」の学級通信への反応のように、自分の夢や将来の事を考えること役立つという意見が多い。また、「将来どんな職業につくか決めた時、色々な情報を集めようと思うか」（図20）に対しても4%（1人）以外は、「はい」と答えており、意識は高まっている。10月のアンケートでは、夢や目標を達成するための努力についてわからないと答えた生徒が半数を超えていたが、今回は、「今は、勉強を頑張る」（19%）や「興味のある仕事について調べる」（23%）「その仕事に就くために役立つ高校や大学に行く」（18%）などと、具体的な事を示せるようになり、学級通信を活用することで効果があったということができると思う。

VII 研究の成果と課題

1. 研究の成果

- （1）進路学習計画の見直しを生徒・保護者などの観点から確認でき、進路学習計画（案）の作成ができ、計画に沿った進路学習を行うことで効果があがるということが検証できた。
- （2）構成的グループエンカウターの授業で、生徒の自己理解と他者受容の深まりが確認できた。
- （3）生徒同士の関係作りという観点から、構成的グループエンカウターの効果を確認できた。
- （4）学級通信について再確認することができ、生徒とのコミュニケーション、保護者との連携が可能になるということが確認できた。
- （5）進路学習計画を意識した学級通信の発行やそれを授業の中で利用することで、生徒の進路意識が高まった。

2. 今後の課題

- （1）学校生活全体（特別活動、道徳、総合的な学習など）を通じた進路指導のあり方の検討。（学校の現状に即した進路学習計画の見直し）
- （2）3年間を見通したキャリア教育と進路指導を関連させた実践の工夫。
- （3）進路学習で利用する構成的グループエンカウターの開発。
- （4）保護者との連携のための工夫と実践。

3. 終わりに

この半年間の研修では、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。ここでの研究を今後の教育実践で生かせるように努力していききたいと思います。

本研究を進めるにあたってご指導くださいました沖縄県立総合教育センター主事の田里光夫先生、当研究所所長の玉城勝秀先生、研修係長の上原等先生、研究所の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

また、研究の機会を与えてくださいました嘉数中学校前校長の仲本賢輝先生、ならびに嘉数中学校校長比嘉康雄先生、アンケート回収や検証授業などでいろいろご協力くださいました嘉数中学校の職員、そして、同期研究員の宮城先生に深く感謝申し上げます。

〈主な参考文献〉

- 國分康孝・國分久子 他著 『エンカウターとは何か』 図書文化 2000年
 國分康孝・大友秀人著 『授業に生かすカウンセリング』 誠信書房 2001年
 片野智治編 『エンカウターで進路指導が変わる』 図書文化 2004年
 片野智治編 『エンカウターで学級が変わる』『エンカウターで学級が変わる part 2』 図書文化 1998年
 宗方比佐子・渡辺直登著 『キャリア発達の心理学』 川島書店 2003年
 吉澤克彦編著 『中学校学級づくり構成的エンカウターエクササイズ 50選』 明治図書 2005年
 八巻寛治・吉澤克彦編 『エンカウター実践テキスト 1号・2号』 明治図書 2005年
 岩上薫・横山健次郎編著 『学年・学級通信の作り方講座』 文教書院 2004年
 岩崎義行・佐藤功著 『30分でできる学級通信 つくり方活かし方』 2005年

〈インターネット検索資料〉

文部科学省ホームページ『若者自立プラン』『中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書』他
 『Benesse 教育情報サイト』『教育発見隊アンケート』国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童・生徒の職業観・勤労感を育む教育の推進について」

職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み

資料 1

職業的（進路）発達に関わる諸能力育成の観点から			現実的探索と暫定的な選択の時期
職業的（進路）発達に関わる諸能力			・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心などに基づく職業観勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索
領域	領域説明	能力説明	
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り協力・共同して物事に取り組む	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う事を大切にして行動していく能力	・自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる ・自分の悩みを話せる人を持つ
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支えあいながら仕事をする ・新しい環境や人間に適応する
情報活用能力	学ぶことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	【情報収集・探索能力】 進路や職業などに関するさまざまな情報を収集・探索するとともに必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・産業・経済などの変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・上級学校・学科などの種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴などが分かる ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理・活用する ・必要に応じ、理解した情報に創意工夫を加え、提示。発表・発信する
		【職業理解能力】 様々な体験を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今、しなければならないことなどを理解していく能力	・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する ・体験などを通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる ・係、委員会活動や職場体験などで得たことを、以後の学習や選択に生かす
将来設計能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに事故の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活、仕事上の多様な役割や意義及びその関連などを理解し、自己の果たすべき役割などについての認識を深めていく能力	・自分の役割やその進め方、より良い集団活動のための役割分担やその方法がわかる ・日常生活や学習と将来の生き方の関係を理解する ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動などで実行していく能力	・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する
意思決定能力	自らの意思と責任でより良い選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自己の個性や興味・関心などに基づいて、より良い選択をしようとする ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに機能する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす ・より良い生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくとする

第1学年進路指導年間計画（案）

資料2

目標：自分をみつめ他の人を見つめ、希望をもって意欲的に生活する

題 材	月	時数	目 標	学 習 内 容		資料 中学生と進路	学級通信での 進路学習の内容
				指導の重点	生徒の学習活動		
進路学習とは何か	4	1	○進路決定までの流れを理解させ、普段の努力が大切な事を理解させる	○打ち込めるものを持ち計画を立てて毎日を過ごす大切さに気づかせる	○進路決定までにどのような努力が必要かを話し合う	○「進路の学習とは何だろう」p26	○進路について考えよう
将来の希望	5	1	○自分の将来の希望について考え、達成するためには、普段の努力が必要なことを理解させる	○生徒の希望調査をもとに、どのようにすればよいかを考えさせる	○小学校の時の夢について発表させ、実現させるための方法を考える	○スタディプラン「夢の百字作文を書こう」p22	○生きがいのある人生ってどんなものか
自分の特性を知ろう	6	1	○自分を見つめ、長所や短所を考えることにより、将来の希望との関係を考えさせる	○自分を知るための資料を示し、自分の長所や短所について考えさせる	○ジョハリの窓について学習し、自分だけでは的確に自分を把握することが難しいことを学ぶ	○「ジョハリの窓」 ○「自分を見つめるポイント」p52	○ジョハリの窓で、自分自身を知り、成長させよう
自分を伸ばそう	7	1	○自分の長所などを伸ばすために努力の大切さを理解させる	○学習の他の学校生活を充実させることで、自分の個性を伸ばすことができることに気づかせる	○学級生活や学校生活における自分の役割や参加意欲について考え、話し合う	○「自分についてのまとめの例」p54	○「先輩に学ぶ～先輩を目標に～」
働くことの意義	9	1	○働くことの意義（能力の発揮や生活の維持、社会への参加など）について考えさせる	○「働くこととは何か」について考えさせる	○働くことの意義について考え、話し合う	○「この職業は何だろう」p29	○毎日遊んでいられれば幸せか
いろいろな職業	10	1	○自分の関心のある職業を認識し、これを深く知ることへの意欲を持たせる	○進路情報の重要性や探索方法を知り、進路情報活用に意欲を持たせる	○インターネット等での情報収集の仕方を知る「13歳のハローワーク」や「職業データベースの世界へようこそ」等のHPを利用	○スタディプラン「知りたい職業について調べよう」p32	○いろいろな職業と適性について
中学校を卒業後の学ぶ道	11	1	○中学校卒業後にどのような進路があるか理解させる	○基本的な進路コースについて理解させる	○人生モデルをもとに、どのような進路をとればよいのかを話し合う	○人生モデル学習のためのワークシート	○中学校を卒業のいろいろな道
進路計画を立てよう①	1	1	○自分の将来の希望を実現させるために進路計画の必要性を理解させる。さらに実行することの大切さを考えさせる	○進路に対する心構えを理解させる	○自分はどのようなことに興味があるかを考え、お互いに発表しながら、自分の進路の方向性を探る	○「設計も計画もなく生きてきた」p64、「将来の進路の計画とはどのようなものだろう」p65	○自分自身を見直す～興味や適性～
進路計画を立てよう②	2	1	○実際に暫定的な進路計画を立てさせる	○自分の将来の進路について考えさせ、努力点を見つけさせる	○自分の進路計画を立てる（20年後の自分など）	○スタディプラン「将来を設計し、進路を計画してみよう」p64	○なりたい自分になるには

※「中学生と進路」（沖縄県中学校進路指導研究会 日本進路指導研究会 編 実業之日本社 発行）に準拠して作成

※学級通信には、適宜「お仕事紹介」のコーナーを設ける。

※色つきの部分はエンカウターの手法を用いて授業を実施することが可能な題材である。

第2学年進路指導年間計画(案)

目標：自分の進路との関わりから、自分の学校生活を見直す

題 材	月	時数	目 標	学 習 内 容		資料 中学生と進路	学級通信での進 路学習の内容
				指導の重点	生徒の学習活動		
働くことの 目的と意義	5	1	○自分なりの働く意義を考えることにより、働くことや職業への興味・関心を高めさせる	○働くことには様々な意味があることを理解させる ○働く上で大切にすることは、人によって違うということを理解させる	○なぜ働くのか、働く上で何を大切にしたいかを話し合っ発表する	○「なぜ働くのか」p12～	○進路は一生の自分探し
職業とは何 だろう	6	1	○自分を取り巻く身近な職業の理解から、生活と職業のかかわりや大切さを理解させる	○身近に様々な職業があることを理解させ、自分がどんな職業に関心があるかを考えさせる	○ある1日に出会ったり、見かけたりした人の職業を列挙して、情報交換する	○「私達の生活と職業」P30	○働く人から学ぶ
自分の適性 について考 える	6	1	○「適性」とは、どのようなことを理解させ、自分の進路選択や進路計画に生かしていける能力を養う	○適性と進路を結びつけて考えさせ、自分の適性について興味を抱かせる	○適性とはどのようなものかを考え、適性について前向きな意見を出し合う	○「自分の長所を知っているか」p60	○自分を見直そう
職場体験学 習に向けて	7	1	○職場体験学習に向けての諸注意を理解させる	○職場におけるマナーなどについて理解させ、職場体験学習が有意義なものになるように意識させる	○教師の話を聞き、分かったことをメモする。体験学習への抱負を持つ	○職場体験学習へのワークシート	○昨年度の感想など
進路学習の 大切さを知 ろう	9	1	○「進路学習は何のために行うか」という進路学習の目的の理解を深めさせる	○進路学習で知っておかなくてはならないことを理解させる	○簡単な事例をもとに問題点を話し合い、解決策を考える	○ワークシート「問題点を発見しよう」	○進路室の利用について
不得意教科 の勉強法(自 分を高める 学習法)	10	1	○日頃の学習を振り返り、自分を高める学習法を身につけさせる	○学習に対する悩みを自分なりに自覚し、みんなで共有させる	○学習の悩みを互いに語り合い、助言しあうことで、解決への糸口をつかむ	○「私が感じている学習の悩み」p18	○こんな人はお ないかな?
高校の種類 と学科の特 色	12	1	○進路情報の活用方法等の理解と上級学校に就いての理解を深めさせる	○具体的な進路情報をきっかけに、自分の具体的な進路選択に向けて考えさせる	○何人かで上級学校について調べ、調べた感想を発表する	○「校種別・学科別の資料」p52	○進路室の利用状況とインターネット検索について
進路計画を 立てる	1	1	○自分の生き方を十分に意識した進路計画を作り、進路選択に向けての意識を高めさせる	○進路計画を立てる目的について理解し、立案する上でのポイントを考えさせる	○各自で進路計画を立て、グループで見せ合い、感想を述べ合う。	○「進路計画を立てるポイント」p64～	○一生のライフプランを作ってみよう(例)「あの偉人は何をしていたか」
最上級生に 向けて	3	1	○3年生の生活をイメージし、進路に関する意識や心構えの向上を図らせる	○将来の進路を見据え、最終学年をイメージする事で、前向きに最終学年としての自覚をもたせる	○1年間を振り返り、3年生にどう生かしていけばよいかをまとめ、最上級生としての心構えを持つ	○「2年生を振り返ってみよう」「3年生をイメージしよう」p68～	○「1年間の出来事～行事や学級の取り組み～」

※学級通信には、適宜「お仕事紹介」や職場体験学習のコーナーを設ける。

※「中学生と進路」(沖縄県中学校進路指導研究会 日本進路指導研究会 編 実業之日本社 発行)に準拠して作成
※色つきの部分はエンカウターの手法を用いて授業を実施することが可能な題材である。

第3年進路指導年間計画（案）

目標：主体的な進路選択とより良い自己決定

資料4

題 材	月	時数	目 標	学 習 内 容		資料 中学生と進路	学級通信での進路学習の内容
				指導の重点	生徒の学習活動		
希望の実現に向けて	4	1	○自分の学習の実態を評価し、将来の自分のあり方を考えながら、改善するべきことを認識させる	○過去の学習データをもとに、1年間の学習に対する心構えを確認させる	○学習上の問題点を出し合い、どのように解決したらよいのかを話し合い、自分にあった学習計画を立てる	○「学習に関するチェック表」p8 「計画を行動に移そう」p9	○今の自分を見つめよう
先輩の姿に学ぶ	5	1	○卒業生の声を聞き、進路選択のための検討すべき要素や踏まえるべき段階について理解させる	○身近な例から進路学習についての理解を深めさせる	○卒業生の体験を聞いて、自分の進路について考える	○「進路決定までの道すじ」p15	○卒業生のプロフィール
生き方について考える	6	1	○自分の進路選択の最終的な目標として、将来の希望職業や働く意味・希望する生き方を改めて考えさせる	○生きがいのある人生とは何かを考えさせ、自分の人生について考えさせる	○生きがいがある生活について話し合い、生きがいのある生活は様々な考え方がある事を知る	○「生きがいを持って働くことは？」p20	○ニート・フリーターって何？ ○先輩の話のまとめ
進学先を調べてみよう	7	1	○進路情報を収集・活用することの大切さを理解させる	○情報を正確に読み取り、どのように活用するかを考えさせ、進路選択に生かさせる	○希望する進路先を十分理解していないとどうい問題があるのか理解し、進路先を調べる活動計画を立てる	○「2人の先輩の体験談」p22	○高校見学会や説明会参加への心構え
学習の問題点や悩みを解決しよう	9	1	○学習への不安はみんなが持っている事を知り、原因理解と解決策を考えさせることにより、受検への心構えを持たせる	○具体的な学習の悩みについての解決策を考えさせる	○学習に対して不安に思っていることを発表しあい解決策を話し合う	○「みんなはどのような学習の悩みを持っているのだろう」p38	○自分の力にあわせた勉強の計画
自分についてまとめよう	10	1	○自分の成長を肯定的に捉えさせ、客観的に自分と進路希望を見つめなおさせる	○自分を理解する方法に取り組ませ、情報の選択を考えさせる	○自分を知る視点を具体的に知り、どんな特色があるか考える	○「自分の特色を表す視点を考えよう」p35	○自分のよさ発見カード
自己を生かす進路のあり方	11	1	○進路選択に向けての現状を把握させ、進路相談への意欲を喚起させる	○進路選択の検討に向けての要素と手順を確認させる	○進路選択の手順を再確認、いつまでに何をすべきか考える	○「進路選択の手順を確認しよう」p32	○受検校決定の条件
受検期の生活	12	1	○受検期の過労や動揺を克服するための具体策を考えさせる	○受検期の健康保持の工夫と規則正しい日常生活の送り方を考えさせる	○健康保持の個人の取り組みの他、学級の対処法を話し合う		○私の生活バランスチェック
進路の最終決定	1	1	○進路選択に向けて必要な準備・手続きを理解し、自分の人生設計から進路を決定する	○進路決定に向けての自分の課題を確認させる	○進路選択に不足している部分を考え、話し合いを行う	○「進路決定で相談すべきポイントとは」p52	○入試直前の勉強方法
中学生活のまとめ	2	1	○3年間の学習を振り返り自分の成長を確認させるとともに、多くの人に支えられてきたことに感謝の気持ちを持たせる	○様々な出会いや思い出を振り返り、成長を自覚させる	○各自で3年間の振り返り、発表しあう	○「中学3年間の振り返ってみよう」p62～	○自分が決めた道を最良のものにしよう

※学級通信には、適宜「お仕事紹介」や進路情報のコーナーを設ける。

※「中学生と進路」（沖縄県中学校進路指導研究会 日本進路指導研究会 編 実業之日本社 発行）に準拠して作成

※色つきの部分はエンカウターの手法を用いて授業を実施することが可能な題材である。